

# コンテナ苗の特徴及び現状について

## コンテナ苗



- マルチキャビティーコンテナやサイドスリット型コンテナなどの専用容器で育苗
- ビニールハウス内での育苗が可能

## 普通苗



苗畑での育苗



## 【コンテナ苗の特徴】

### ◎ 生産作業の効率化・労働負荷の軽減

- ・育苗ベンチの利用
- ・空中根切り※をするため、根切り作業が不要
- ・播種や土入れ作業等の機械化が可能

※コンテナの底面に穴が開いており、コンテナ下部に到着した根は空気に触れると自然根の成長が止まること

## 【コンテナ苗の現状】

### ◎ 人工造林の現状

- ・近年の人工造林面積は約2万haで推移しており、年間の苗木生産本数は約6千万本

### ◎ コンテナ苗の生産状況

- ・コンテナ苗の生産本数はH20:6千本→H21:9万本→H22:27万本→H23:42万本→H24:76万本→H25:114万本と増大しているが、依然低位

### ◎ 植栽作業の効率化

- ・均一的な形状の根鉢であるため、専用の植栽器具を使用することで、簡易な植栽が可能

### ◎ コンテナ苗の苗木代

- ・コンテナ苗の生産は、H25年度時点で25道県にとどまっておらず、競争がほとんど見られないが、参入者の増大等による価格の低下に期待

### ◎ 植栽時期の拡大

- ・コンテナ内面のリブ等により根巻きを生じず、根に土が付いたまま植栽できるため、活着が良好  
(但し、寒風害等の恐れがあるなど条件が厳しい時期の植栽については留意が必要)
- ・生産期間の短縮が可能であることから、伐採に合わせた生産がしやすいため、伐採と造林の一貫作業に用いやすく、造林コストの低減が期待